

障害者就労をアシスト

FC岐阜 今季ホーム6試合で支援事業

岐阜・近郊



阿修羅
ばれんの会 片桐久夫
(土岐市下石町)

岐阜支社
〒500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売) (265)0265
(広告) (266)4791
(事業) (265)0267

羽島通信部
058(398)5445
Fax(398)5444
北方通信部
058(324)0249
Fax(323)4491
各務原通信部
058(382)0552
Fax(371)6931

美術品 高価買受

《秘密厳守》

版画 絵画
掛軸 陶器

無料鑑定 出張いたします
売るのも買うのも
何でもご相談下さい

ザンシー 美術社
株式会社

0120
14-5448

岐阜市本荘中ノ町10丁目37-3
(県美術館東へ200m)

サッカーJ2のFC岐阜がホームスタジアムとして使用する岐阜市の長良川競技場で、障害者の就労支援事業が始まった。十一月中旬までに予定する今季のホーム計六試合で障害者が働き、運営業務の一端を担う。

(沢田石昌義)



小学生にバスをかけるぎふ就労支援センターのスタッフら＝FC岐阜提供

この事業は、FC岐阜を運営する岐阜フットボールクラブ(岐阜市)とスポンサーの名鉄協商(名古屋市)、障害者を雇用する「ぎふ就労支援センター」(笠松町)の二者が連携して展開。クラブから支援センターがスタジアム運営の業務委託を受け、体や心に障害のあるスタッフが来場者のバス発行業務を担う。名鉄協商は資金面でバックアップする。



就労支援事業を開始した(左から)名鉄協商の高橋社長、ぎふ就労支援センターの前田社長、岐阜フットボールクラブの宮田社長＝いずれも岐阜市の長良川競技場で

初日だった七日の栃木SC戦では、専用の緑色ピブスを着た男女スタッフ五人がブースで親子連れらに應對し、入場パスの発行手続きをした。

スタッフの多くはウェブサイトで制作を手掛ける内勤者で、外部との交流は仕事柄少ない。支援センターの前田宏之社長は「スタッフが子どもや保護者と触れ合い、普段見ることのできない笑顔を見ることができた」と、事業の第一歩を歓迎した。

クラブによると、スタジアムの運営には会場設営や警備などの業務に、クラブスタッフやボランティアなど約三百人が携わっている。スタジアムで障害者が活躍している例はJ1の川崎フロンターレが知られている。

七日に会見したクラブの宮田博之社長は「スタジアムにはさまざまな仕事があり、さらに活躍の場を考えていきたい」とあいさつ。

バス発行業務のほか、来賓や関係者向けの受け付け業務など事業展開の可能性を来季以降に検討する。名鉄協商の高橋健治社長(本業出身)は「積極的に協力していきたい。障害者の働き場所の確保につなげたい」と話した。